

「本時 2 / 3 の逃げ」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今回の公開研究会の指導案の「学習指導計画」である。注目していただきたいのは、本時の位置である。

【5年 もの溶け方】(12時間)

- ・いろいろなものを溶かしてみよう。どこまで溶けるか調べよう。・・・4時間
- ・ものによる「溶け方のちがい」や「再結晶」を調べよう。・・・3時間
- ・溶かす前と溶かしたあとの「重さ」を比べよう。・・・2時間
- ・「ものが水に溶けること」とはどんな現象だろう?・・・**3時間(本時 2 / 3)**

【3年 磁石の性質】(8時間)

- ・磁石につく物、つかない物の研究・・・3時間
- ・磁石に化ける物の研究・・・1時間
- ・磁石のN極とS極の研究・・・2時間
- ・自動改札の切符の研究・・・**2時間(本時 1 / 2)**

この傾向は、私の過去の指導案を見ても同じである。なぜ「3 / 3」や「2 / 2」としないのか。これは実は、教師の「逃げ」ではないだろうか。

「2 / 3」というのは、3時間計画の小單元の中の2時間目を研究授業にするという意味である。「1 / 3」なら慎重な導入が必要、「3 / 3」ならまとめなので後がない。しかし「2 / 3」なら、どちらでもないのでも「逃げ」がきく。「本時 2 / 3」の研究授業の終わり方の例として以下のようなものがある。

「良い意見が出始めましたね。残念ですが、時間です。次回も話し合いを続けましょう。」

「では、時間になりましたので、まとめの話し合いは次回にしましょう。」

「各班から結果は出ましたが、ここから何がわかるのか、次回話し合いましょう。」

「今日は時間がないので、ノートに振り返りを書いて提出しておいてください。先生がよく読んでおきます。」

「今日は実験だけで終わってしまいましたね。実験についてのまとめと話し合いは、次回にするので、各自考えておいてください。」

およそこんなところだろう。今回の研究授業でも2つともこのパターンだった。参観して下さる先生方にとっては、小單元や単元のまとめの場面を見たいだろう。私が参観者だったら、やはりそこに興味がある。

今回の公開研究会では、理科の授業では一時、理科室に入りきれないほどの参観の方が来てくださった。授業後の協議会でも、午後の理科の分科会でも、実に多くの意見や質問が出され、自分の授業、自分たちの実践をリフレクションできた。共同研究者、コメントーターの先生方の講評も大変わかりやすく、大変勉強になった。



私は、公開研究会が終わったあとの、校舎内の独特の静寂感に身を置くのが好きだ。あれだけ参観者の方で賑わった廊下も、誰もいない。子どもたちも、お手伝いに奔走して下さった保護者の方も、一人もいない。見慣れた自分の職場なのに、不思議と全くちがう風景に見える。



あれだけ活発に意見を交わした理科室も、明りが消されて、今はしんとしている。月曜日になればまた会えるとわかっているのに、あのがんばった、5年生と3年生の子どもたちが、懐かしいと感じる。

本校では公開研究会2日目を「大晦日」、翌登校日を「元日」と呼んでいる。「また新しい研究の一年が始まる」という意味だ。来年の公開研究会では、「2 / 2」或いは「3 / 3」という、勇気ある研究授業に挑戦してみたい。